

ホームページ校長原稿（4月20日）

**校長室から** 「4月、新しい挑戦が始まりましたー今年の西高を解く鍵は〈師弟同行〉と〈前進〉」  
佐賀県立唐津西高等学校 校長 副島一春

唐津西高等学校の104年目の新しい学校づくり、挑戦が始まりました。4月6日には始業式、8日には新入生200名を迎えての入学式を挙りました。入学式では、3月11日に発生した未曾有の惨事である東日本大震災の多くの犠牲者・被災者の皆様に対しまして、哀悼・お見舞いの意を表すとともに、式辞の中で、被災地の多くの学校で不自由さの中での高校生活のスタートを切った同学年の若者がいるという事実を心に刻み、生かされている命に感謝しながら精一杯頑張ろうと、エールを送りました。

さて、本校の学校教育目標・学校経営ビジョン・本年度の重点目標は、別掲載していますのでご覧ください。この中で特に教職員及び生徒に示したテーマは「師弟同行」と「前進」です。唐津西高等学校は、歴史と伝統を誇る学校ですが、そのことに安住しては発展は望めません。明確な目標とその実現の為にチャレンジする心を持ち続けてこそ、新たな歴史と伝統を築きあげることができ、明日への確かな第一歩を踏み出すことができます。このためにも、教職員と生徒とが心をいつにし、お互いに切磋琢磨することが求められていきます。勿論、教職員と生徒とは立場が異なりますので、教職員が強い指導力を発揮する場面が多いことは当然だろうとは思いますが。しかし、教職員もまた向上心を持ち、生徒や保護者の期待に叶うよう、自己努力をすることが必要となります。一方、生徒自身もいつまでも受け身にはならず、積極性を以って日々努力し、職員をよき指導者として信頼することが不可欠です。そして、保護者の皆様の本校教育に対するご理解とご支援、同窓生の皆様や地域の方々の激励もあってこそ、唐津西高等学校の平成23年度としての前進が生まれてきます。全校あげて頑張りますので、応援ください。

最後になりますが、嬉しい話題を2つ付記します。一つは、形を変えたボランティア活動のことです。4月8日の佐賀新聞に、被災地では子供たちが書くものがなく困っており、佐賀市の市民グループが被災地に贈る文房具を集めているという記事が載っていました。朝礼で職員の皆さんに「机の中に使っていないものや未使用のもので提供できるものがあれば、校長室まで持ってきてほしい」とお願いしました。すると、3時間ぐらいで、ボール箱いっぱい紙袋いっぱいの文房具を多くの職員から提供いただきました。鉛筆、シャーペンシル、色鉛筆、ノート、はさみ、定規など実に多くの種類のものでした。被災地の避難先の体育館で子供たちが絵をかいたりしている姿を想像するだけで楽しく、また安堵を覚えたりしました。早速その日のうちに届けましたが、とても喜ばれました。「師弟同行」の一つの具体的な実行でした。もう一つは、挨拶のことです。校長室の廊下側のドアは開け放しています。閉ざされた校長室ではなく、みんながふらりと入りやすい場所にしたいという思いからです。さすがにふらりと入ってくる人はいませんが、思わぬ「師弟同行」で、教職員も生徒のみんなも、朝夕校長室の前を通るときは開け放した廊下側から大きな声で「おはようございます」「さようなら」と声をかけてくれます。その声はとても爽やかです。朝は、1日頑張ろうという気になりますし、夕方は、みんな無事でよかったとホッとします。「師弟同行」は大きな掛け声ではありません。日々の小さな出来事の実践から、具現化できるものだと信じています。唐津西高等学校に集うみんなで、日々の小さな実践を積み重ね、大きな前進を果たしたいと思っています。